

伝える「不屈の魂」

津嘉山正種朗読劇

不条理突く姿 表現へ意欲

県出身俳優で舞台や映画などで活躍する津嘉山正種による朗読劇「沖繩の魂 瀬長亀次郎物語」が9月14～16日、那覇市のタイムスホールで上演される。戦後の沖繩で、米軍からの圧力にも不屈の精神で戦い抜き、民衆と共に歴史を切り開いてきた瀬長の生涯を語る津嘉山は「党利党略ではなく、民衆から人間性が支持された誇れる政治家が沖繩にはいた。若い世代にもぜひ知ってほしい」と意欲を燃やす。主催は沖繩タイムス社、劇団青年座。共催は琉球放送。特別協力は那覇商業高校同窓会。

瀬長亀次郎物語

原案は謝名元慶福、構成台本は津嘉山、演出は菊地一浩。1998年に映画「カメシロ―沖繩の青春―」に瀬長役で出演した津嘉山は「いつか舞台でも挑戦したい」と思っていたという。

瀬長は56年に那覇市長選に初当選。米軍批判を繰り返したことから那覇市は補助金や融資を凍結される。しかし、瀬長を後押しする市民によって納税率が向上。市政運営の危機を脱する。平和に、素朴に暮らしていた県民が米軍との地上戦に巻き込まれ、占領される。そして現在まで続く米軍による事件事故で、また県民が犠牲になる。

復帰前後、瀬長はその不条理に異議を訴え続けてきた。津嘉山は「現在も日本政府は沖繩に寄り添う、と言いつが何もしていない。フジフジする」と語る。「東京で芝居を

学び、いつか沖繩に還元したい」と思っていた。ウチナーグチ、ウチナーヤマトウグチ、標準語を喋れるウチナーンチュだからこそ、表現できる魂の世界観がある」。県民に背を押されて歩んだ瀬長の

(学芸部・福里賢矢)

人生を、個性を、舞台上で浮き彫りにすることに力を入れる。

沖繩のリーダーの一人となつた瀬長を題材にした今回の作品について「瀬長の魅力は演説会にも見える。集めた、ではなく集まつた聴衆は数万人。政党ではなく、瀬長個人の魅力が広く支持を集め、力にした」

ここ数年、差別や戦争、平和をテーマにした作品を追い続けてきた津嘉山にとって、愛する故郷、沖繩に背負わされた不条理を突く、民衆を代表した「瀬長亀次郎」を演じることに強い意欲を見せる。復帰前に芝居を学ぶため上

京、「沖繩なまり」を隠して稽古していた津嘉山と瀬長の舞台は重ならないが、今回の作品に対する津嘉山の思い入力は強い。

「きつと、感情移入しすぎて、唾を飛ばしながら、思い切り喋りますよ」



「瀬長亀次郎物語」に込められた思いを語る津嘉山正種さん＝那覇市・沖繩タイムス社

タイムスホールで来月14～16日

津嘉山正種は2018年にタイムスホールで「人類館事件」を題材にした朗読劇を上演しており、今回の舞台は「沖繩人の魂」シリーズ第2弾となる。

開演は9月14日午後6時から、15、16の両日は午後2時。前売り券は3800円、当日券は4300円。問い合わせは沖繩タイムス社読者局文化事業本部、電話098(860)3588。

2019年8月6日・芸能16面掲載